

第4号様式（第8条関係）

議 事 録

会議名	令和7年度第1回寒川町総合計画審議会		
開催日時	令和7年7月24日（木） 15時から17時22分		
開催場所	シンコースポーツ寒川アリーナ（寒川総合体育館） 3階 会議室		
出席者名、 欠席者名及 び傍聴者数	< 委員 > 小川雅子、相田孝、山崎博、森井順子、猪原和康、猿渡修悟、 高橋伸隆、内野晴雄、天利幸一、菊地端夫、釧持麻衣、橋口翔 （欠席者） 山本哲 < 事務局 > 青木企画部長 （企画政策課） 関根課長、守屋副主幹、渡邊副主幹、酒井主任主事 ※ 傍聴者 1 名		
議 題	(1) 会長の選出について (2) 会長職務代理者の指定について (3) 寒川町総合計画審議会の進め方について (4) 寒川町総合計画 2040 第1次実施計画 総括評価について		
決定事項	(1) 会長の選出について 【菊地端夫委員】 (2) 会長職務代理者の指定について 【猿渡修悟委員】 (3) 寒川町総合計画審議会の進め方について 【事務局から内容説明し意見等なし。事務局案のとおりとする。】 (4) 寒川町総合計画 2040 第1次実施計画 総括評価について 【事務局から内容説明し、委員から各種意見等あり。各施策に対する意見内 容を資料内に記載する。】		
公開又は 非公開の 別	公開	非公開の場合その 理由（一部非公開 の場合を含む）	
議事の経過	○開会 1 委員委嘱状交付 2 副町長あいさつ 3 委員自己紹介		

	4 議 題 (1)会長の選出について 委員より事務局案提示の意見あり。事務局案として菊地端夫委員を提示。 各委員了承により会長：菊地端夫委員 (2)会長職務代理者の指定について 会長より猿渡修悟委員を指名。 各委員了承により会長職務代理者：猿渡修悟委員 (3)寒川町総合計画審議会の進め方について ＜事務局から資料2に基づき説明＞ 【会長】 事務局からの説明について、質疑等あるか。なければこの議題は事務局提案のとおり進めていくこととする。 (4) 寒川町総合計画 2040 第1次実施計画 総括評価について ＜事務局から資料3及び参考資料3に基づき説明＞ 【会長】 それぞれ関心があるところを議論できればと思います。 その前に事前質問をいただいていた小川委員、高橋委員追加の確認事項等ございませんでしょうか。 【小川委員】 私が事前質問を提出した時に、内水ハザードマップが配られました。洪水ハザードマップと比べたところ、同じ水害なのに、こんなにも違うのかと感じました。 本日も桐生市 洪水100ミリという情報を目にしました。内水ハザードマップにも具体的に数値の記載があり、100ミリはこのぐらいかと思いながら、危機管理に役に立つと思いました。 急に強い雨が降ることが多くなった気がします。学校の子供たちも、最近は教科を横断して、災害を学ぶ機会があります。社会だけでなく自分の通学路のハザードマップを作ろうという内容もありまして、自分で危険な場所を知って、感じることは良いことだと思います。小学校からは親がついていないので、そういう場所を知っておくということにも非常に役に立ち、すごくいいなと思いました。 今年の1月に八潮市で陥没事故がありました。その数か月前に教育委員会で八潮市の小学校に伺っておりました。なぜ埼玉で八潮という名前なのかと気になっていましたが、何千年も前は海だったようです。そうすると、寒川町の地域も海という
--	---

ことになるかと思います。御回答にあるとおり、管の太さや種類だけでなく、地盤等も含めて、改修等の計画をいただけると安心だなと思いました。

【高橋委員】

まず、数値の修正の説明がありました。私からも事前質問で指摘していました。これは、指摘される前から承知していたものなのですか。他の数値は全部、間違いないですね。

【事務局】

御指摘いただき、認識したものです。改めて全て見直しました。

【高橋委員】

どうしてこうなるのかと理解できなくて質問しました。非常に膨大な資料だったので、全て見切れないので確認しました。

次に、資料 6 ページの総括について、簡単にと言ったら失礼ですけど、短い内容で終わっているように思います。しっかりと総括する必要があるかと思いました。

これを基に、第 2 次実施計画に入っていくことと思います。

質問への回答も、総括の前提がある中で簡単になっている気がしました。改めて委員会で審議していただければと思います。

4 年間の総括は、6 ページのとおり 1 ページで収まるのでしょうか。それも各項目で読むと数行でošまいです。こうだったから、次はこうする、第 2 次実施計画にこう反映するというような内容が必要だと思います。今後の課題とさせていただきます。

特に、事前質問の 2 番目の質問について、重要度は高く満足度が低い施策に、防災、教育、障害者福祉、子育て等、行政サービスの根幹をなすものです。相当大きな問題と思います。やり方が悪いのか、PR の仕方が悪いのか、その辺の総括もしっかりとしないといけません。今後も同じ問題が生じると思いました。

また、事前質問の 4 番目について、目標指標に対し、実績が大きく離れて達成しています。令和 3 年度時点で、目標の 3 倍近くです。最後の令和 6 年度にいたっては 6 倍近くになっています。

コロナ禍のために目標の見通しが立てづらかったとありました。わかりますが、令和 3 年度時点でここまで差が出ていれば、令和 4 年度以降の目標値をもっと上げるべきだったとも思います。そうしないと、何のための目標値なのかわからなくなってしまいます。真剣味がなくなってしまいます。この辺ももう少し検討の余地があると思います。

それから、最後の 46 ページについて、要は行政もお手伝いしているということだと思いますが、もう少しわかりやすく回答いただきたい。このまま読むと、企業がやるのが本来なところが、企業でなく行政もやってくれるという感じになってし

まいりますので、表現の仕方も少し工夫されたいかがかなと思いました。

【事務局】

まず、総括評価が簡素ではないかという御意見です。今回、資料 3 も非常に分厚いものになっています。説明は省略しておりますが、8 ページ以降に各施策の達成状況から、最後は町民アンケートの部分まで、細かく一つ一つの事業も評価シートという形で出させていただいております。

本日も含め、各会議等においては時間も限られておりますので、これを一つ一つ丁寧に説明はしきれませんし、評価の読み手としても、端的にわかりやすい結果を求める方も多くいらっしゃると思いますので、御理解いただきたく思います。

重要度が高くて満足度が低い施策について、事務局としても課題と認識しております。説明でも申し上げましたが、施策ありきではなく、住民のニーズを的確に捉えて、その満足度を上げていく取り組みをしなければいけません。

第 1 次実施計画でも、特に、子育て関係は結果が悪かったと思っています。そういった点も踏まえて、第 2 次実施計画において、目標設定や取り組みの見直しもしておりますし、組織としては、子ども政策課を新設して、てこ入れしております。第 1 次実施計画を踏まえて第 2 次実施計画も変えるべきところは変えてきておりますので、進捗を注視しながら、改めるべきところは改善に努めていきます。

【高橋委員】

7 ページからの結果報告についても数字の羅列です。次のアクションについての記載はありません。これで理解してくださいというのは、難しいと思います。

【会長】

23 ページ以降には、施策ごとの総括があって、6 ページは全施策の総括の総括となります。

例えば、26 ページには子育て支援の充実の施策の総括が書かれています。これは施策ですので、その下に事務事業があります。事務事業の総括は右開きの 27 ページにあります。それぞれの事務事業の総括を踏まえた上で、26 ページの左下に政策としての総括、そこに課題、例えば予算の課題、資源的な課題等の記載もあり、また、第 1 次実施計画期間における取り組みやその反省等も記載してあります。

例えば 28 ページですと、主な課題として、目標設定に問題があったとあります。先ほどの目標値が低いというような御指摘に関連するものです。それから 34 ページは時世的な課題、これはコロナの影響が大きかったというような内容です。それらの総括の総括がおっしゃるとおり、6 ページのところに記載があります。

各施策の部分の総括について、もう少し違う総括ができるのではないかなというように含めて御覧いただくと、最終的に 6 ページの総括の総括がもう少し修正できるのではないかとお話を聞いていて思いました。

	それぞれ御関心のある分野の施策別評価に文章で書かれている部分は、機械的に入れている数値をどう所属課が評価、あるいは分析をして、課題として捉えているのか御覧いただいくといいかなと思いました。 おっしゃるとおり、ちょっと分かりにくいところがあって、課題の特出しみたいなどころです。御指摘あった満足度と連動性が低い施策、あるいは、事務事業との連動性に課題のある施策です。事務事業は施策を達成する手段、目的と手段の関係になっていますけれども、手段のほうである事務事業の達成率が低いのに施策の達成率が高いとなると、目的と手段の関係性に問題があることになります。 今回は第1次計画の評価ですけれども、前年度の後半に第2次の議論をしたときに、こういった課題があるということを踏まえた上で、第2次実施計画では、関係性を、ロジックツリーを用いて改めて見直しをしました。 おっしゃるとおり、評価にとどまらずこの後どうするのか、時間がずれて、第2期の実施計画をつくるときに一部反映され、前回のときに議論したところになるかと思います。 【事務局】 会長の御発言のとおり、6ページが4年間の総括評価結果でございます。そして記載のとおり、課題となる部分が多くございます。 第2次実施計画を策定するに当たりましては、ロジックツリーを作成し、生じている問題への対策を検討してまいりました。 実際、施策と手段に対する事務事業につきましては、全体の約6割～7割の指標を変更しております。 一方で、満足度評価という点では、毎年、進捗を確認しておりますが、住民の満足度の向上と私たちが課題と思って取り組む指標の達成は、必ずしも繋がらない部分があります。どのような形で目標を設定し、達成すべきなのかを、第2次実施計画の事中評価におきましては、第1次実施計画の総括及び反省を踏まえ、庁内でのヒアリングを行う予定です。 また、第2次実施計画におきましても、外部委員の皆様の御意見をいただきながら、進捗管理を行いたいと思っております。 【会長】 高橋委員から大変重要な御指摘でした。全体像が分かりにくく見えないということでしたが、他にいかがでしょうか。 【橋口委員】 資料の後半にあるアンケートについて、生産年齢と高齢者別になっている為、内容によっては大きく乖離する結果も出ています。そのような点に着目していただくと、今回の議論もより深まるのかなと思います。
--	--

	例えば、「町民が町の歴史を認識して、郷土愛が醸成されていると思いますか？」について、生産年齢は十分、やや十分が比較的多いのですが、高齢者だと、やや不十分、不十分が多く、高齢者の方が不十分と思っているようです。その原因を深掘りすることで具体的な要因が見えてくると、より良い総括になるかと思います。 【会長】 その件について、私も事務局とも勉強をさせていただいております。例えば、高橋委員に御指摘いただいた 17 ページの指標達成率は高いのに、満足度が低い施策の中に、障がい福祉の充実があります。これは恐らく当事者に聞く場合と非当事者に聞く場合では全く異なるため、もう少し解像度を上げるような形で、橋口委員がおっしゃった年齢で分ける例の御紹介もありましたが、そのような点も踏まえ、検討してもよいと思います。 学校教育も町だけではなく県など行政で所管が違う中、学校教育そのものの何を連想して回答しているのかは、人によって異なります。 事務局を中心に、かなり高度な統計分析、例えば、地域ごとの違い等を踏まえながら、現在議論しているところです。 小川委員の御指摘について、取組自体は雨水の話だと思われます。今年の 1 月に八潮市であった陥没というのは污水管についてです。 下水道は、2 種類ありまして、雨水を川に流す雨水管と、我々がトイレとか台所で使ったものを流して処理場まで流す污水管です。東京等の古くから整備されているところは污水管と下水管を一緒に合流式というものを使っているのですが、寒川町は分流になるのでしょうか。 あと、八潮の場合は腐食が原因とされています。污水から発生する硫化水素が管の上部を損傷、空洞化したことによるものです。地下に埋まっているものの違いをなかなか認知する機会は少ないと思います。 【相田委員】 八潮市はコンクリだったと思うので、町との材質の違いもあると思います。 【事務局】 詳細は分かりかねますが、下水につきましては、長寿命化計画の中で順次整備しているといった話を担当課から聞いております。 整備につきまして、企業庁と集中的にエリアを設定し、下水と上水道を一体的に整備すると合理的というところは、調査研究しているとはおっしゃっていました。口径も含めました更新や被害の想定区域といったシミュレーションしながら優先順位を考えるとといったことも聞いてございます。 【小川委員】
--	---

	安心しました。ありがとうございます。 高橋委員からありました防災・学校・障がい・地域福祉・子育て支援等について、満足度が低く、数字で表すのは難しいと思います。私も障害を持った友達がいます。 例えば、雇用について、企業側の理由で雇用が決まります。職場の方たちの理解が得られづらい場合、小さなできごとが度重なり、煙たがられ、本人は居心地が悪くなってしまう。多様性の教育が大事だと思っていて、その人をそのまま受け入れ、みんなで幸せになれる認識が今の子供たちは、できていると思います。一方で大人たちはそういう教育を受けていません。 障がい者も地域福祉も子育ても全て、多様な視点と観点から、満足度、住み心地のよさというのが違うので、やはり多様性というところを学校だけでなく、町内の人々も含め、みんなができる力で幸せに生きていける。そういうような理解を深めていくことが大事ななと思いました。雇用されるという事実よりも、そこで幸せに毎日過ごせるということが大事な点と思いました。 【会長】 行政の役割として、理解の促進が重要ということの御指摘であったと思います。 【内野委員】 80 ページの産業基盤の整備の辺り、観光客の数字がコロナ禍から比べると、251 万人にと増加傾向にあります。そうなりますと、74 ページの小売店舗数も本来は、増加するものと思います。しかしながら、今後も減少傾向が続くのではないかと考えています。交流人口が多ければ、売上げが上がり、商売として成り立ちます。しかしながら、商売をやりたいのに、法的に商売ができる土地整備ができてないという課題があります。 町としても認識いただいているかと思います。にぎわい交流創出ゾーンの構想は作成いただきましたが、当該ゾーンで商売はできません。 我々は、観光客に対し、アンケートを取っており、飲食店、ホテル、宿泊施設、土産屋さんがいない等は、よく書かれます。 200 万人以上来ている人たちを、来ただけで終わらずに、どう周遊していただくかが大切です。努力しなくても 200 万人以上の観光客が来る現状がありながら、それを取り込めず、商売にもつながらないことは大きな課題です。 【会長】 一つの施策だけではなく、施策ごとの関係を読み取ると、御指摘のとおりだと思います。本来であれば、地域経済への波及として小売店舗数の下げ止まり、あるいは増加につながるポテンシャルを持っているが、様々な理由でできていない、活かされていないとの御指摘だと思います。
--	---

【相田委員】

農地を転用するのは難しく、そう簡単に許可が下りないのが現状です。

【会長】

相田委員、ありがとうございます。

御質問とか御意見を考えていただく間のつなぎとして、89 ページの施策、事務事業になります。我々が総合計画審議会の委員として総合計画を進めていくために何が必要かを過去に議論したときに、様々ございますけれども、物事を進めていくのは人で、加えて町の総合計画を進めていくのは町の職員が元気でなければいけない、モチベーションは大事であるということを当審議会から提案させていただき、町側で職員力向上事業を始めていただきました。指標は凸凹しておりますが、例えば 2020 年のコロナ禍には、緊急事態宣言があつて、その後、10 万円の給付金事業がありました。職員の方々においては、非常に疲弊をされていた時期です。そういったこともあり、実績がマイナスであったかと考えられます。取り組みの成果なのか、あるいは、コロナ禍を経たことなのか、指標は少し上向きつつあるような状況です。委員の中で、総合計画を進めるために何が重要かということの議論した成果が見える形になっているとも考えられます。

【天利委員】

消防団について、62 ページに総括で消防団の人員確保の記載があります。全国的に難しいというのは確かです。以前は、自営業の方が消防団に入っていて、運営しておりましたが、今はサラリーマン団員の方が非常に多いです。昔からの自営業の方が残って、サラリーマンの団員が増えている中で、なかなか自営業の方が辞められない現状があります。60 歳を超える消防団員の人が多くなってきております。一度、分団長を経験した方が団員として残っていただいているのが多いです。消防団員だけでは人員の確保が非常に難しく、広報にも最近載せていただいて非常にありがたいです。

また、国のほうでは報酬を上げるというお考えがあり、報酬は上がっていますが、個人の報酬が上がったからといって消防団に入る人はほとんどいないと思います。他にも、訓練に対するうるさいとの声があり、火災予防運動でも何時から何時までと決められています。一生懸命やっているのに理解していただけないというのが、どこの市町村の消防団でもあるかなと思っています。

【橋口委員】

寒川町の人口規模に対して何人程度の消防団員がいるのが適正なのでしょうか。

【天利委員】

適正かの具体的な数は分かりかねますが、現状で 10 の分団があり、定数が約 1

	70 となり、欠員もいます。 【山崎委員】 常備消防はどうなのでしょう。茅ヶ崎市に委託ですか。 【事務局】 茅ヶ崎市に委託としており、広域での運営になります。そういった点でも、非常備消防である消防団の重要性が高まっています。天利委員のおっしゃるとおり、分団員は減数傾向がございます。第 2 次実施計画におきましても、重要性を感じておりまして、新規入団数を K P I として新たに設定し、若い方々に入団していただく方策を検討することとしております。 【山崎委員】 先ほどありましたとおり、お勤めの方が増えているという社会背景は大きく影響しているかと思います。 神奈川県では、神奈川県消防団協力事業所表示制度がございます。これは、従業員が消防団員として入団しており、消防団活動への理解がある事業所等に対し、協力事業所表示証の交付と入札参加資格認定時における加点を行うものです。このような制度も活用していただければと思います。 【事務局】 非常に良い制度だなと思いました。後ほど、確認させていただきます。 【会長】 今の山崎委員の情報提供も含め、まだまだ伸ばせる余地はあるかもしれません。 猿渡委員に聞きたいのですが、先ほどの自己紹介の際に、自主防災のお話もあつたかと思います。消防団が徐々に減っている中で、自主防災組織の役割を少し大きくすることで地域全体の防災力を維持するということも考えられます。 【猿渡委員】 自治会の加入者も減少しています。若い方で転居してきた方に、勧誘しに行くと、メリットについて聞かれます。こちらとしては、困ってしまう難しい質問です。自治会費を払い、何年かで役員が回ってくる。役員においては、会議や自主防災事業等やることが多いから、仕事をしているのでできない等の御意見をいただきます。定年延長もあり、現在は 70 歳まで、仕事を続ける方も多く、自治会まではできなくなっています。 自治会として重要視しているのは、災害時の自助、共助、公助です。まず、大事なのは自助、それから共助です。発災時には、自治会は自主防災など多くの活動が
--	--

	ありますが、あまり認知されていません。 自治会の加入率減少について、実際の加入率は把握できていないものと認識しております。現在把握している自治会加入率は、町の住民基本台帳に登録のある世帯数を分母とし、分子は各自治会で把握している加入世帯数としております。 しかし、自治会で把握している世帯数について、1つの住宅に2世帯が居住している場合、自治会としては、1世帯とするため、町の登録とは乖離が生じてしまいます。そのような点を踏まえた加入率を測定する必要があると考えています。 また、自治会運営における課題もあります。町から避難行動要支援のリストをいただきますが、自治会の加入者台帳を整備しきれていない自治会では、対応は難しいと思います。自治会によって差が大きくありますので、同基準にまで統一することも大切だと考えます。 同じ自治会費を払っていただくのですから、先ほどのメリットにもつながる話ですが、住民の満足度にもつながってくると思います。自治会長がそれぞれ経験年数も違いますし、毎年自治会長が変わる自治会もあり、難しいところもありますが、活動が盛んなところとそうではないところの差を埋めることが加入者の増加につながるとも考えています。 自治会の活動を通して、隣近所の方だけではなく、顔見知りの地域の方を増やすことが共助の促進につながり、地域の防災力が強まると思います。 【会長】 内野委員から寒川町のポテンシャルの話がありました。約 1,700 ある自治体の中、多くの自治体は人口減少に悩みつつも、寒川町は、町外から人がやってくる元気な自治体と認識しております。一方で、生産年齢人口の減少という日本全体の課題が、地域の担い手不足にも影響しています。 自治体から隣町に引っ越してみて、はじめて地域の比較ができます。ここの町の行政サービスがどうだったかが分かります。町内を移動して、転居する場合がありますし、町内会の活動を比較する機会も少ないかもしれません。自治会長連絡協議会の立場ですと、活動の差が把握できるということですね。 満足度調査についても、施策ごとに地域別の差が出てくるのでは、ということで試行的に調べていただいたりしました。もしかしたら、そういったことも2次以降の議論に、もう少し確度の高い評価、あるいは調査につなげられるのかなと思いました。 【鈎持委員】 指標を0として設定されている指標についてです。子育て支援の充実の待機児童数等は、どうしても目標指標を0に設定していると、指標の達成率は0%か100%にしかならざるを得ないので、改善が見られても達成していなければ0%となってしまう。指標達成率は低い、満足度は高い施策について、改善されていると
--	---

	住民は感じているけど、達成率は 0 か 100 なので、うまいやり方がないかを感じていたところでした。 同様に特定空き家の件数も目標指標が 0 です。0 を目指すのは大事なことです、目標を 0 にしたことによって、特定空き家として認定しないという方向に働く可能性もあり注意が必要と考えます。改善率等を K P I とする方が良いと考えます。 【事務局】 担当課へは共有させていただきます。町の現状について、企画政策課で把握している内容を共有させていただきますと、寒川町の空き家の実態としては、民と民の間で解消していることがほとんどのようです。先ほど、会長からありましたとおり、全国的に見れば、人の流れは多い方で、かつ、茅ヶ崎、藤沢、海老名、平塚といった知名度の高い地域が隣接していることから、価値としては高く評価いただけるようです。 御指摘にもあったとおり、現状を捉える指標の設定については、担当と調整し、また、このような会議の場で御意見いただきながら設定できればと思います。 【釧持委員】 法改正により特定空き家の一步手前の管理不全空き家という区分が新設されました。もう少し厳格な基準という意味で、管理不全空き家を対象とした指標を設け、さらに達成を目指すというのも良いと考えます。 【森井委員】 先程、天利委員と猿渡委員からありましたように、民生委員についても担い手不足が問題となっています。今年の 11 月で改選となっていますが、担い手がいません。支援をする側である民生委員の年齢が高くなっています。 猿渡委員のお話にあった様に、私も含めですが 80 代にならないと担い手がいないという問題が現実味を帯び始めてきていることが悩みです。先ほど、企業の話も出ましたが、消防団の方も含め、民生委員の担い手を支援してくれるような制度などがあっても良いと考えます。鎌倉では企業と連携し、担い手を増やしていくなど対策されているそうです。 【会長】 先ほど山崎委員から消防団の入札加点の話がありました。そのようなことができるのではというような御提案を含んだお話がありますし、あるいは橋口委員がいらっしゃるんですけど、消防団員を助ける消防団アプリ、あるいは民生委員を助ける民生委員アプリや町内会アプリなども出始めていると思います。 【橋口委員】
--	--

	我々のLINEというアプリにより、地域コミュニティの関係が希薄になっていく中で、つながりを持たせる意味合いで、デジタルの活用は増加傾向にあります。 コミュニケーションの部分を含め、回覧板のようなツールにより、お祭りやイベントなど何か情報を伝える活用がコロナ禍を経て広まりました。役員の方の負担を減らすため、デジタルを活用する取り組みが増えています。 東京都などでは地域コミュニティのデジタル化に対し、補助金を出しているようです。 それを扱える人として、その役割を若手の方たちにやっていただくことで、役割分担を与え、参画するような形があれば、担い手が増える可能性が広がるのではないかと考えています。 【会長】 定年が延びていくと、仕事の中でそういったデジタルツールを扱う高齢者、あるいは、これから高齢者になる人たちもデジタルには慣れている人たちだと思います。そういう意味では、様々な機能をデジタルが補完するような機会がやってくる気がいたしました。 本日は、様々な角度から、非常に有用な御意見をいただきました。事務局から各担当におつなぎいただければと思います。 それでは、第1次実施計画の総括評価についての議論を終了します。 次第に戻りまして、5 その他について、事務局からございますか。 【青木企画部長】 本日は活発な御議論をありがとうございました。 新たな施策の見方、切り口など、大変勉強になりましたし、我々の資料の見せ方についての課題をいただいたと認識しております。 様々な切り口から見るように、様々な材料を分析しながら持ってきた結果、これだけ厚くなってしまいました。この資料を作ることをゴールにしてきたわけではなく、PDCAのAにどうつなげるかが重要だと認識しております。我々だけではなく、寒川町の職員、また、委員の皆様がどう次の議論に発展させていけるのか、というところもしっかりと認識し、また、資料の作成についても本日の御提言を生かしていきたいと思います。 会長から話がありました人口について、けれども、内部的には、令和6年度から減少傾向に入ってきた認識しております。地方創生の観点から、定住人口、関係人口を増やしていく取組を進めていますが、これから人口が減少することが確定している中で、町外から人を持ってくることに注力しているのかという点もあります。本日の議論の中で、自治会や消防団、民生委員にしても、人がいないというところが地域の大きな課題であり、どう生産性を上げていく必要があるかが課題だと思います。
--	--

	また、私は、8年前にも総合計画審議会を担当しておりまして、当時は、委員と事務局のやり取りが多い印象でしたが、本日参加させていただき、委員同士の議論が活発であり、良い雰囲気だと感じました。 この雰囲気の中で、我々も一丸となり、今後の寒川町について皆様と議論していただきたく存じます。引き続き御協力をお願いいたします。 【事務局】 事務連絡でございます。今回は、第2次実施計画令和7年度分の事中評価について御議論いただければと考えております。時期は11月頃を予定しております。詳細は、追って御連絡差し上げます。 【相田委員】 役場の庁舎を新しくすれば人口が増えると思います。南海トラフ等の災害が来た場合に、役場の庁舎は持つのでしょうか。この2次実施計画に庁舎を直す内容を入れ込むことを提案します。職員も良い場所で仕事をし、新設すれば周りの人たちも訪れやすくなると思います。 【会長】 御提案、ありがとうございました。職員採用への志願者に対して、新庁舎へ良い雰囲気を持ってもらうことや、特に、被災後の復興の拠点となる役場庁舎が危ないわけにはいきません。耐震化等は学校を優先に行っていますが、庁舎の建て替え、あるいは耐震化も機運が高まっていると思います。 庁舎の多機能化として、例えば、新潟県の長岡市役所は、市役所自体が駅前のにぎわいの拠点になっています。御意見として賜りたいと思います。 では、こちらで終了いたします。 ○閉会
資料	令和7年度第1回寒川町総合計画審議会次第 資料1 寒川町総合計画審議会委員名簿 資料2 寒川町総合計画審議会の進め方について（案） 資料3 寒川町総合計画2040 第1次実施計画 総括評価報告書 参考資料1 寒川町自治基本条例 参考資料2 寒川町総合計画審議会条例 参考資料3 寒川町総合計画2040 第1次実施計画 参考資料4 寒川町総合計画2040 第2次実施計画
議事録承認委員及び 議事録確定年月日	菊地 端夫（令和7年9月5日確定）